

6. 薬剤耐性（AMR）に対するインドネシアの実情に則した院内感染対策（IPC）と抗菌薬適正使用プログラム（ASP）研修による人材育成事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（NCGM）

【現地の状況やニーズなどの背景情報】

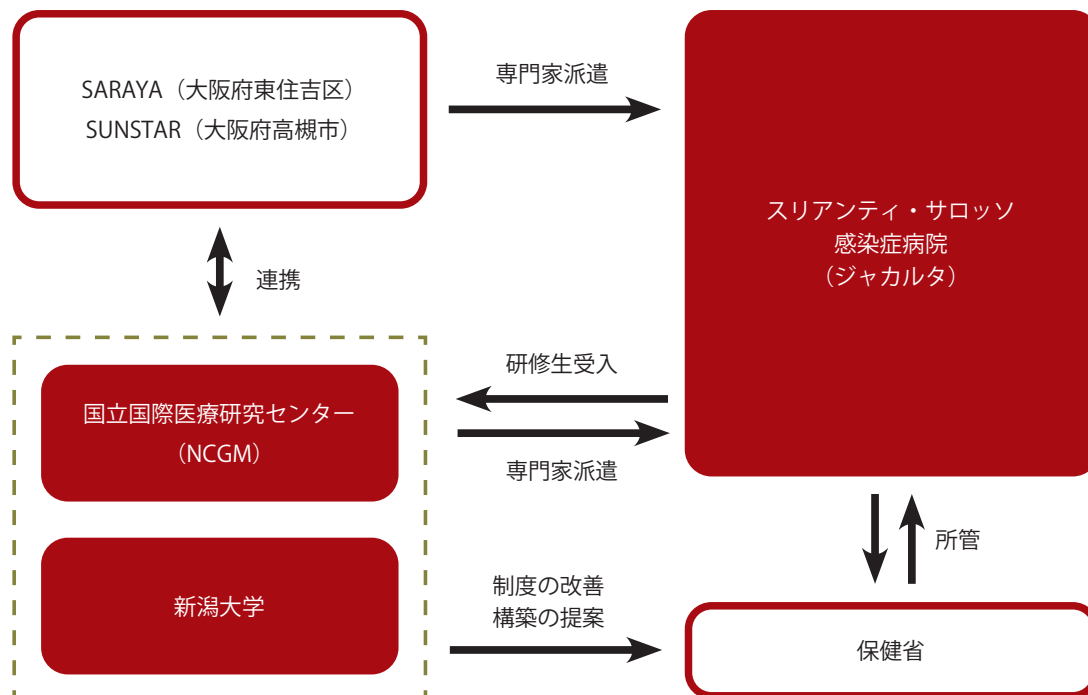
- ・ 院内感染の原因となるアシネトバクターの65%がカルバペネム耐性であり、耐性化により死亡率が上昇する
- ・ 院内感染対策と抗菌薬適正使用により耐性菌の減少が可能である。また口腔ケアにより人呼吸器関連肺炎の減少が可能である。

【事業の目的】

- ・ 抗菌薬適正使用プログラム（ASP）の質向上
- ・ 手指衛生のためのアルコール製剤の使用量増加
- ・ 口腔ケアの普及

【研修目標】

- ・ これまでの国内外での経験をもとに、インドネシアにおけるASPの研修を行う。
- ・ ベトナムで実施した研究をもとに、途上国で実施可能な適切な口腔ケアプログラムをインドネシアで実施する。
- ・ 国産の手指衛生、口腔ケア製品のインドネシアにおける普及を行う。





スリアンティサロソ感染症病院

インドネシア対象機関

ジャカルタにあるスリアンティサロソ感染症病院は、インドネシアにおける新興・再興感染症に対応するための中心的な役割を果たす国立の感染症専門病院である。

本事業の対象機関は、インドネシアジャカルタにあるスリアンティサロソ感染症病院である。本病院は、インドネシアにおける新興・再興感染症に対応するための中心的な役割を果たす国立の感染症専門病院である。

背景

- 院内感染の原因となるアシネトバクターの65%がカルバペネム耐性であり、耐性化により死亡率が上昇する
- 院内感染対策と抗菌薬適正使用により耐性菌の減少が可能である。また口腔ケアにより人呼吸器関連肺炎の減少が可能である。
- 抗菌薬適正使用プログラム(ASP)の質向上、手指衛生のためのアルコール製剤の使用量増加と、口腔ケアの普及を目指す。

目的

- これまでの国内外での経験をもとに、インドネシアにおけるASPの研修を行う。
- ベトナムで実施した研究をもとに、途上国で実施可能な適切な口腔ケアプログラムをインドネシアで実施する。
- 国産の手指衛生、口腔ケア製品のインドネシアにおける普及を行う。

事業の背景と目的はスライドのとおり。

結果

1)現地研修（日本人専門家派遣2回：2019年7月,10月）

総合感染症科、歯科口腔外科による指導、（10月はTOT.33名育成）

2)本邦研修（研修生6名受入：2020年1月）

総合感染症科、歯科口腔外科、薬剤部、検査部、看護部、新潟大学予
防歯科学分野による指導、ワークショップ



結果:本事業では、今年度現地研修と本邦研修を実施した。内容はスライドのとおり。現地研修2回のうち10月の研修は、スリアンティ・サロソ病院における指導者研修（TOT: Training for trainers）である。

成果

- ・手指衛生の理解度が上昇した。

WHO「Hand Hygiene Knowledge Questionnaire for Health-Care Workers」によるテストを行い、正解率が10.1%上昇。

- ・口腔ケアについても24.1%上昇した。

- ・インドネシアのASPにおける問題点が明確となった。



成果

- ・10月のTOT研修受講者により、12月に院内の医療スタッフ（約80名）へ手指衛生、口腔ケアのトレーニングが実施された。



成果

- ・ 現地研修を通じ病院関係者の手指衛生の理解が深まり、協力企業であるSARAYAの手指衛生用アルコール製剤(660本)、およびアルコール設置機材をスリアンティサロッソ病院に2019年12月の設置が実現した。
- ・ 現地研修で紹介したスポンジブラシ (SUNSTAR)を用いた口腔ケア手法が、研修後に同病院において患者へ使用された。



初年度の目覚ましいアウトカムの一つとして、10月のTOT受講者による技術の普及が早くも12月に確認された。手指衛生、アルコール製剤の普及とアウトカムが確認された。

この1年間の成果指標と結果

	2019年度 研修内容	2019年度 アウトプット指標	2019年度 アウトカム指標
申請時	1)本邦研修（研修生の受入） ・ NCGM総合感染症科、歯科口腔外科、薬剤部、検査部、看護部、新潟大学予防歯科学分野、視察、講義、技術指導 2)現地研修（日本人専門家派遣） ・ 手指衛生、口腔ケア、抗菌薬適正使用に係る講義、実技指導	1) 本邦研修参加者 ・ 院内感染対策、抗菌薬適正使用に係るスタッフ6名 ・ プレテスト・ポストテストで5%向上 2) 現地研修での対象者 ・ 院内感染対策、抗菌薬適正使用に係るスタッフ：15名 ・ プレテスト・ポストテストで5%向上	1)本研修参加者による研修前後3か月間の手指衛生アルコール製剤使用量5%の増加
実施状況	1)本邦研修（研修生の受入） ・ NCGM総合感染症科、歯科口腔外科、薬剤部、検査部、看護部、新潟大学予防歯科学分野、視察、講義、技術指導 2)現地研修（日本人専門家派遣） ・ 手指衛生、感染対策、口腔ケア、抗菌薬適正使用に係る講義、実技指導	1) 達成 ：本邦研修の実施（2020年1月） 参加者数：院内感染対策、抗菌薬適正使用に係るスタッフ6名 ・ プレテスト・ポストテスト実施。 2) 達成 ：現地指導者研修2回(2019年7月,10月) 7月:院内感染対策、抗菌薬適正使用に係るスタッフ15名 10月TOT人材育成数：院内感染対策、抗菌薬適正使用に係るスタッフ33名 ・ 達成 ：10月のプレテスト・ポストテスト正解率結果：手指衛生に関してはWHO「Hand Hygiene Knowledge Questionnaire for Health-Care Workers」によるテストを行い、手指衛生68.9%→79.0%（10.1%↑）と上昇した。口腔ケアについても23.4%→47.5%（24.1%↑）に上昇した。	1) 達成 ：本研修後、従来行われていなかった手指衛生の間接的モニタリング法であるアルコール性手指消毒薬の消費量のモニタリングが実施される。 院内での研修後に導入された手指衛生アルコール製剤使用量の変化。（近日中に結果が報告される予定） 2) 達成 ：指導者研修受講者により院内の医療スタッフ（80人）へ口腔ケアトレーニングの実施（2019年12月）また、日本のスポンジブラシも臨床で使用された。 指導者研修受講者により院内の医療スタッフ（〇人）へ手指衛生のトレーニング（間接観察方を含むアドバンスドコース）が実施される（近日中に結果が報告される予定） 3) 達成 ：基礎データとして、facilityサーベイ、周術期抗菌薬、薬剤耐性率のデータを確認した。

この1年間の成果指標は現状に応じて具体的に改定を行った。初年度としては順調に達成。一部、カウンターパートからの報告待ちの情報はあるが、次年度のモニタリング・強化にもつなげていく。

来年度の計画

- ASP研修を通して明確になった課題である、院内感染症サーベイランスの構築、運用に関する講義、血液培養の採取プロセスに関する指導を行う。
- NCGM口腔ケアパッケージによる指導を行う。
- 手指衛生用アルコール製剤使用のモニタリング・評価の実施及び強化

良いスタートを切ることができた初年度を踏まえて、来年度の計画をスライドのように立案した。